

成果指標				
成果指標	教室・講演会の参加人数			
指標設定の考え方	文化財の発掘及び保護並びに市民に対する啓蒙普及が適切に行われたか。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目 標	5250	6000	6000	0
実 績	4243	4985	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	市役所内事業課には埋蔵文化財包蔵地の市内一覧地図を配布し、事業計画がある場合は事前に担当に連絡するように要請済み。今後は一般市民に対する啓蒙活動が必要と考える。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	継続的に埋蔵文化財の詳細分布調査を実施するとともに、適切な文化財の保存を推進し、調査研究結果については可能な限り公開することにより、文化財は国民の共有の財産であることを広く市民に啓蒙し、文化財保護への理解を図る。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題